

これまでの消防庁における惨事ストレス対策



1

これまでの消防庁における惨事ストレス対策

平成 7年 1月 阪神・淡路大震災、3月 地下鉄サリン事件

平成13年 9月 新宿区歌舞伎町ビル火災

平成13年12月 **「消防職員の現場活動に係るストレス対策研究会」**

精神科医や臨床心理士等の専門家の協力を得て、全国の消防職員、消防本部、消防学校を対象とする大規模なアンケート調査及び研究を実施。

平成15年 2月 研究の成果を踏まえ、惨事ストレス対策のあり方について報告書にとりまとめ、全国の消防本部、消防署所等に配布。

平成15年 5月 報告書の提言を受け、惨事ストレスが危惧される災害が発生した場合、現地の消防本部等へ精神科医等の専門家を派遣し、必要な助言などを行う

「緊急時メンタルサポートチーム」を創設

平成17年 6月 各消防本部等における取組をさらに促進させるため、精神医学・心理学の専門家や消防関係者からなる

「消防職員の現場活動に係るストレス対策フォローアップ研究会」を設置。

平成18年 3月 消防本部等における今後の惨事ストレス対策のあり方等について検討し、その検討結果を報告書として取りまとめ、全国の消防関係機関に配布。検討会提言を踏まえ、緊急時メンタルサポートチームの増員を実施(発足当時5人→現在32人)。



2

緊急時メンタルサポートチーム 1

1 緊急時メンタルサポートチームとは

緊急時メンタルサポートチームとは、惨事ストレスの発生が危惧される大規模災害、特殊災害又は多数の死傷者を生じた災害等が発生した場合、現地からの要請等に基づき、消防庁があらかじめ登録した精神科医、臨床心理士等を消防本部等に派遣し、消防職員及び消防団員の惨事ストレス対策を実施するもの。（※平成15年から運用開始）

2 目的や活動内容等について

- 任意に参加を希望（※）する消防職団員を対象とした、惨事ストレスの緩和並びに急性ストレス障害及び外傷後ストレス障害の発生予防、軽減等を目的とする個別カウンセリングやグループミーティング等の実施。（※PTSD予防チェックリストの結果や本人申出等を考慮）
- 緊急時メンタルサポートチームの活動は、消防職団員個人に対する診療には及ばない。
- 緊急時メンタルサポートチームとして派遣された者は、活動により知り得た秘密を漏らしてはならない。
- 緊急時メンタルサポートチームの派遣に要する経費は、消防庁が負担するものとする。

3

緊急時メンタルサポートチーム 2

活動実績（平成24年3月31日現在）

※注 惨事ストレスセミナー及び個別相談会除く。

（平成15年のチーム発足以来）46件の消防本部等へ派遣、延べ1,765名のケアを実施。
うち東日本大震災に伴う派遣 16件の消防本部等へ派遣、延べ1,235名のケアを実施。

《過去の派遣事例（一部）》

- 平成17年5月 JR福知山線の脱線事故
- 平成20年5月 中国四川大地震（国際消防援助隊）
- 平成18年8月 埼玉県ふじみ野市大井プール事故
- 平成22年8月 埼玉県防災航空隊ヘリ墜落事故 等



中国四川省で活動中の救助チーム（消防庁ホームページより）

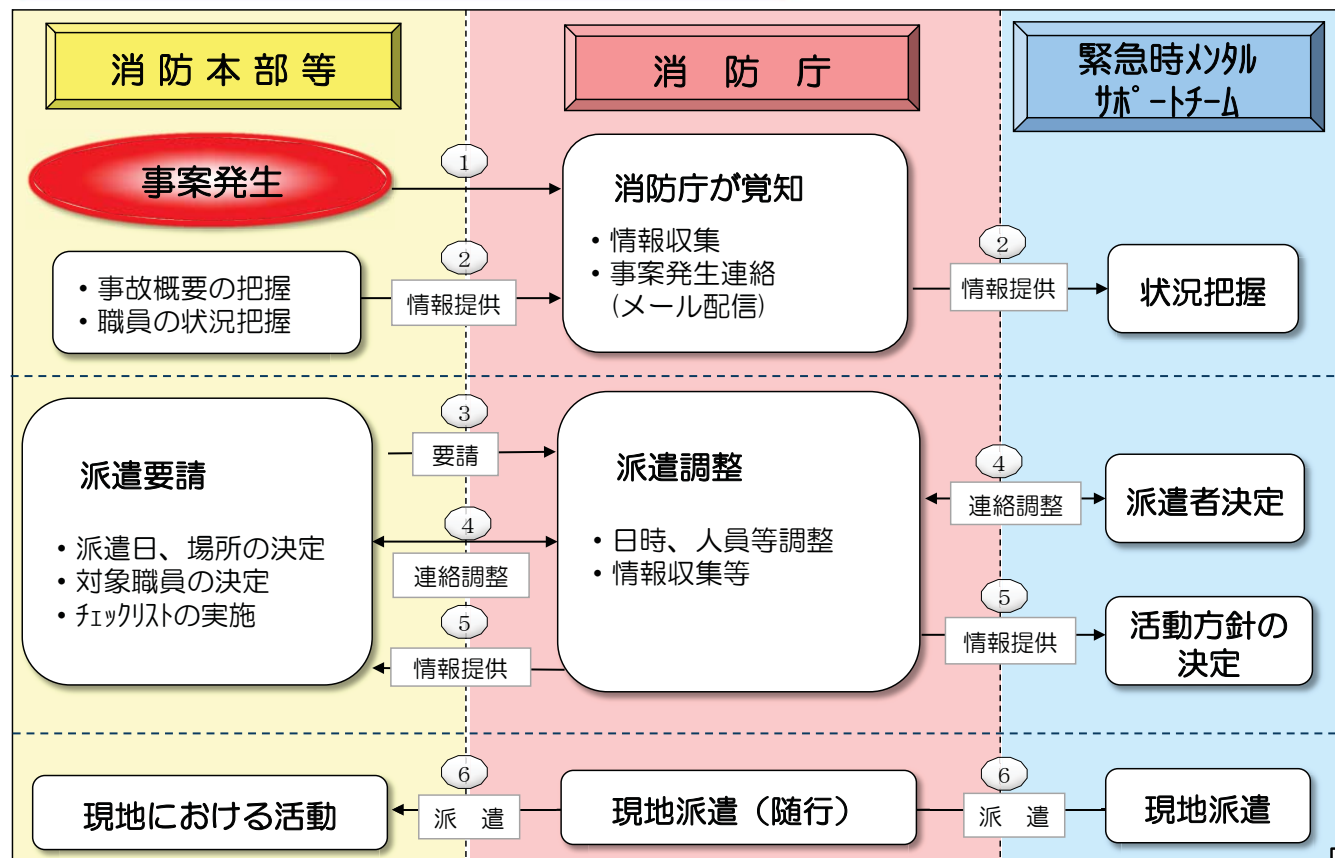


JR福知山線脱線事故（平成17年版 消防白書より）

4

緊急時メンタルサポートチーム 3

緊急時メンタルサポートチームの派遣までの流れ



5

緊急時メンタルサポートチーム 4

緊急時メンタルサポートチーム登録名簿

(平成24年3月31日現在、チーム登録者数 32人)

	名 前	所 属
1	浅 海 明 子	社会医療法人財団大樹会 総合病院 回生病院
2	稲 本 絵 里	日本医科大学多摩永山病院
3	梅 田 香 子	医療法人清和会 吉南病院
4	大 澤 智 子	兵庫県こころのケアセンター
5	岡 本 淳 子	立正大学心理学部
6	奥 田 良 子	中央大学学生相談室
7	影 山 隆 之	大分県立看護科学大学 精神看護学研究室
8	加 藤 純	ルーテル学院大学 総合人間学部臨床心理学科
9	加 藤 寛	兵庫県こころのケアセンター
10	小 西 聖 子	武蔵野大学 人間関係学部人間関係学科
11	小 泉 典 章	長野県精神保健福祉センター
12	笹 川 真 紀 子	武蔵野大学 心理臨床センター
13	重 村 朋 子	日本医科大学 学生相談室/公衆衛生学教室
14	篠 原 朝 美	香川大学 医学部精神神経医学講座
15	関 根 剛	大分県立看護科学大学
16	高 塚 雄 介	明星大学人文学部
17	戸 田 み な 子	カウンセリングオフィス神戸同人社

	名 前	所 属
18	中 谷 三 保 子	帝京平成大学健康情報科学研究科
19	中 村 泰 江	札幌学院大学
20	林 行 雄	花クリニック
21	福 島 眞 澄	東日本電信電話株式会社 首都圏健康管理センター
22	藤 田 悠 紀 子	藤田「心の相談室」
23	前 田 正 治	久留米大学精神神経科
24	増 茂 尚 志	栃木県精神保健福祉センター
25	益 本 佳 枝	ますもとメンタルクリニック
26	松 井 豊	筑波大学人間総合科学研究科
27	松 浦 正 一	帝京平成大学 日本ストレスケア研究所
28	丸 岡 隆 之	久留米大学医学部精神科
29	丸 山 晋	ルーテル学院大学 総合人間学部社会福祉学科
30	元 永 拓 郎	帝京大学 文学部心理学科
31	矢 島 潤 平	別府大学
32	矢 花 芙 美 子	花クリニック

※50音順

6

惨事ストレス初級研修

消防本部における惨事ストレス対策の担当者や、消防学校において惨事ストレスに関する授業を担う教職員などを対象とした「消防職員の惨事ストレス初級研修」を平成19年から平成22年まで、計9回開催し、223名の消防職員が受講。



研修の様子

○研修カリキュラム(例)

日程	時間	研修内容
1日目	9:00～9:10	オリエンテーション(コース代表挨拶)
	9:10～10:40	ストレスの基礎理論
	10:50～12:00	惨事ストレスとは
	13:00～14:00	惨事ストレス反応の理解と把握
	14:00～15:10	惨事ストレス対策
	15:20～17:20	傾聴の基礎実習
	17:20～17:30	ディスカッション
2日目	9:00～9:20	国の取り組み
	9:30～10:50	悲嘆過程
	11:00～12:00	外傷体験への介入
	13:00～15:00	外傷体験の聴取実習
	15:10～17:10	臨床動作法
	17:20～17:30	ディスカッション
3日目	9:00～10:00	外傷体験の精神医学
	10:10～11:10	グループミーティングの基礎理論
	11:10～12:00	グループミーティングの実習1
	13:00～16:00	グループミーティングの実習2
	16:10～17:10	チーム援助の基礎理論
	17:10～17:30	ディスカッション・修了

○これまでの開催状況

年	受講者数等	
19年	第1期	18名
	第2期	21名
20年	第3期	24名
	第4期	29名
21年	第5期	28名
	第6期	24名
	第7期	24名
22年	第8期	28名
	第9期	27名
計		223名

7

東日本大震災への対応 1

消防庁における対応状況等

- 平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、凄惨な現場での活動が多く、さらに被害の大きかった被災県(岩手県、宮城県、福島県)では、消防職団員281人(死者・行方不明者含む)もの尊い命が失われた。
- 地震や津波被害でただでさえ困難な状況の中、同僚の死という受け入れがたい現実にも苦しみながら、多くの消防職団員が懸命な活動に従事。
- このような精神的にも身体的にも過酷な状況下での災害活動では、惨事ストレスの発生が危惧されることから、消防庁では被災地を重点対象とし、5月から緊急時メンタルサポートチームを派遣開始。
- ※ 緊急消防援助隊派遣消防本部へは、専門家の紹介とともに、独自に消防本部等でケアを行った経費については、平成23年度第一次補正予算により対応可能な旨を周知。



東京消防庁 提供

緊急消防援助隊の活動の様子 (総務省HPより)

東日本大震災に伴う緊急時メンタルサポートチーム派遣(平成24年3月31日時点)

派遣先	消防本部			消防団		
	派遣対象数	全体講義	個別カウンセリング	派遣対象数	全体講義	個別相談
岩手県	-	-	-	4市町	199人	-
宮城県	4本部	282人	217人	1市	114人	-
福島県	2本部	236人	89人	2市町	96人	2人
合計	8本部等	518人	306人	7市町	409人	2人

消防団への派遣は、初めてのケース。

※注、惨事ストレスセミナー及び個別相談会除く

8

東日本大震災への対応 2

東日本大震災以降に発出した、消防職団員の惨事ストレス対策に関する通知等

〔消防職員向け〕

- ・平成23年3月23日 「東北地方太平洋沖地震で現場活動に従事した消防職員の惨事ストレス対策について」（事務連絡）
- ・平成23年4月15日 「東日本大震災に係る緊急時メンタルサポートの派遣に関する要望調査等について（照会）」（消防消第50号）
- ・平成23年5月13日 「東日本大震災に係る緊急時メンタルサポートの派遣について」（事務連絡）

〔消防団員向け〕

- ・平成23年4月27日 「東日本大震災に係る消防団員の心のケアについて」（事務連絡）
- ・平成23年5月19日 「東日本大震災において現場活動に従事した消防団員の心のケアに関する専門家チームの派遣要望調査について（照会）」（事務連絡）
- ・平成23年9月30日 「東日本大震災において現場活動に従事した消防団員の心のケアについて（照会）」（事務連絡）

〔平成23年度第三次補正予算〕

- ・平成23年11月8日 「惨事ストレスセミナー等の開催について（意向調査）」（事務連絡） 他

主な被災県の消防機関の被害状況

（2012年3月11日現在）

【消防本部の主な被害】

消防職員	死者：23名、行方不明者：4名
建物被害（全壊、半壊又は一部損壊）	消防本部・消防署：141棟 分署・出張所：158棟
車両等被害	車両：77台、消防艇：2艇 県防災ヘリ1機

【消防団の主な被害】

消防団員	死者：252名、行方不明者：2名
建物被害（使用不能）	消防団拠点施設（詰所等）：420箇所
車両等被害	車両：261台

※平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）について（第145報）（2012年3月13日12時00分）より抜粋

9

東日本大震災への対応 3

現地における緊急時メンタルサポートチームの活動内容

派遣先の消防本部等で、緊急時メンタルサポートチームの専門家による『全体講義』や『個別カウンセリング』、『組織への助言』等を実施。（※消防団は、『全体講義』により対応。）

全体講義



緊急時メンタルサポートチームの専門家が、それぞれ必要な資料等を用意し、対応。また、福島県では、福島県立医科大学や長崎大学病院の医師方々の協力のもと、放射線に関する講義等を実施した。

〔実施テーマ〕

- 「惨事ストレスに関する正しい理解やそのケアの方法」
- 「被災者家族や子どもに対するケア」
- 「放射線に関する正しい知識」、「被ばくによる健康被害」等

組織への助言



個別カウンセリングの結果等を、守秘義務に配慮しながら、消防本部の幹部職員等に伝達し、組織として今後どのような対応をすべきか等について助言を実施。

※例えば、殉職者が発生した消防本部において、組織としての弔い等について助言を実施。

10

東日本大震災への対応 4

個別カウンセリング

○実施方法：緊急時メンタルサポートチームの専門家とマンツーマンでケアを実施。

○実施場所：個室（会議室、食堂、寝室等）

○実施時間：平均30～40分（最長約90分、最短約10分）

※ 原則、カウンセリング内容は他に漏らさない（秘密厳守）。ただし、本人から申し出のあった場合、組織に伝えてほしい改善事項や個々の特殊情等を、組織への助言の際に伝達。

※ カウンセリング中、医療機関への受診が必要な職員がいた場合は、直接本人に医療機関への受診等の指導助言を実施。



○実施対象者の選定方法（以下の1～3を考慮しながら対象者を選定）

1. 本人希望や周囲からの薦めがある者
2. チェックリスト（PTSD予防チェックリスト、IES-R）の高得点者
3. 被災状況（殉職者の上司・部下・同僚、身内との死別、自宅等が被災など）からケアが必要と思われる者

○主なストレス症状

・（震災以降）眠れない、わけもなくイライラする、怒りっぽくなった、などといった症状が多く聞かれた。

○ストレス要因

- ・ 人的なもの（津波により同僚や家族、身内等が亡くなった等）
- ・ 物的なもの（津波による自宅や車の流出、福島原発事故で警戒区域設定により自宅に帰宅できなくなった等）
- ・ 金銭的なもの（震災被害による二重ローン問題等）
- ・ 放射線被ばくに関するもの等

11

東日本大震災を踏まえた対応

○ 平成23年度第3次補正予算

- ・ 被災地等に対する継続的な緊急時メンタルサポートチームの派遣
- ・ 惨事ストレスに係る相談会等の開催

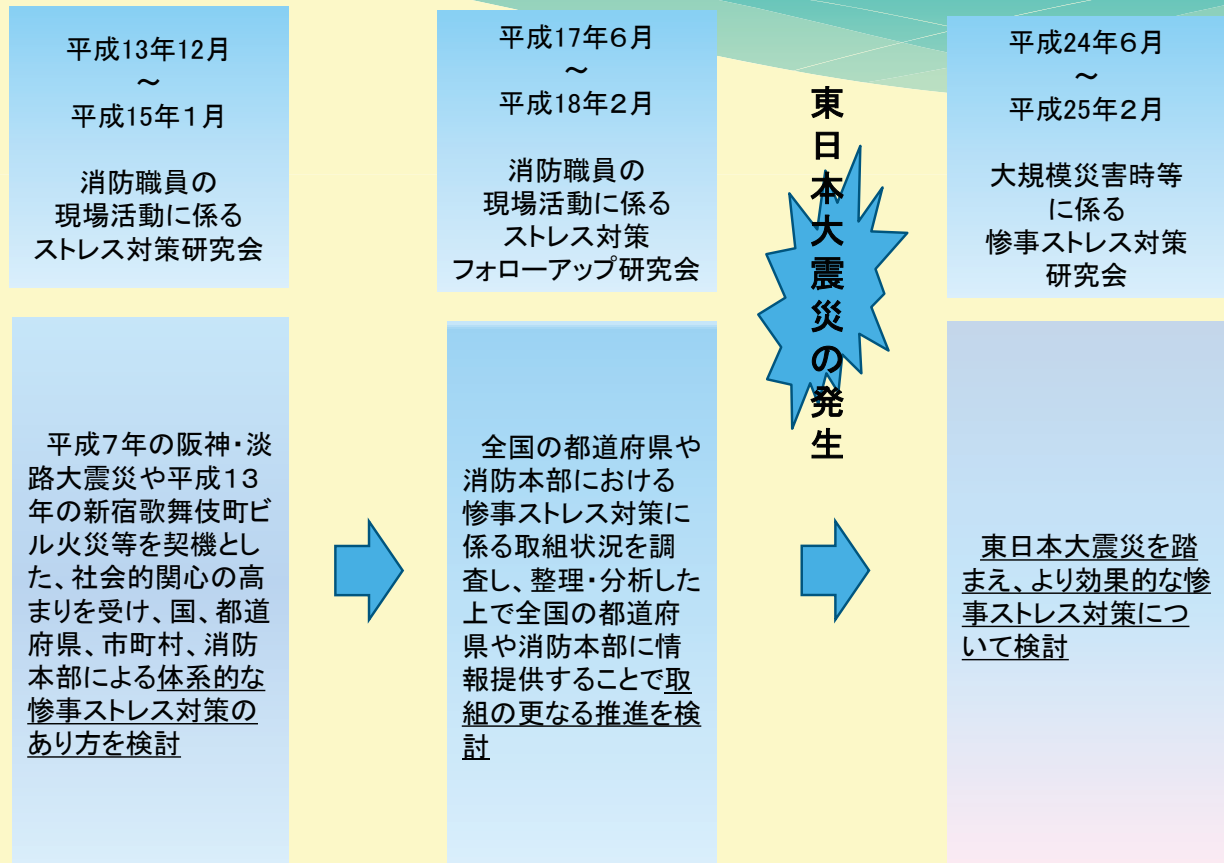
○ 平成24年度当初予算

- ・ 「大規模災害時等に係る惨事ストレス対策研究会」の開催
- ・ 緊急時メンタルサポートチームの派遣

今後、いつ起きるかもしれない東海地震、東南海・南海地震（三連動型地震）、首都直下地震等の大規模災害への対策として、あらためて消防職団員の惨事ストレス対策を強化し、被災地をはじめ、全国で十分な消防活動が継続できるよう、適切な体制の整備をすすめていくことが必要。

12

各惨事ストレス対策研究会における検討項目



主な検討事項（案）

【注釈】

- 1 意見等：東日本大震災後の緊急時メンタルサポートチーム派遣に関する意見等(平成 23 年 6 月～7 月消防庁)
- 2 報告書①：消防職員の現場活動に係るストレス対策フォローアップ研究会（平成 18 年 3 月(財)地方公務員安全衛生推進協会)
- 3 報告書②：消防職員の現場活動に係るストレス対策研究会報告書(平成 15 年 2 月(財)地方公務員安全衛生推進協会)
- 4 要望書：東日本大震災の対応を踏まえた要望について(平成 24 年 2 月全国消防長会)
- 5 消防団あり方検討会：東日本大震災を踏まえた大規模災害時における消防団活動のあり方等に関する検討会中間報告書(平成 24 年 3 月消防庁)

1 惨事ストレス対策の実施体制の整備について

- ① 大規模災害時等に早期・円滑な職員ケアが実施できる体制とするにはどのようにすべきか。

●通常時の災害と異なり、大規模災害時の惨事ストレス対策はどのようにすべきか。

(資料 3)

●ストレスを受けた職団員は早期に対策を受けたいが、被災地の消防本部等は災害対応に追われ、サポートチームを受け入れる体制をとることが困難との意見。(意見等：資料 4)

- ② 長期間で広域的な災害に対応するにはどのようにすべきか。

●緊急消防援助隊の職員がそれぞれの職場に戻った際の惨事ストレス対策はどのように実施したらよいか。

●サポートチームメンバーが対応しやすいよう、登録地の地域格差解消等が必要ではないか。

(配置状況：資料 5)

●地域住民でもある消防団員は、長期間にわたって災害に関わるが、惨事ストレス対策はどうあるべきか。

- ③ 惨事ストレス対策が進んでいない消防本部や市町村(消防団担当部署)において、対策が推進するようにするためにはどのようにすべきか。

●ストレスを受けた職員へのケアを実施している消防本部は 9.8%。(報告書①：資料 6)

●惨事ストレス対策について、十分な情報が消防本部及び市町村(消防団担当部署)にない。

●惨事ストレス対策を行うために適当な専門家が身近にいない。

●小規模消防本部では予算や人員等の制約から惨事ストレス対策が十分にとれず、より広域的な取り組みが必要。(報告書①：資料 6)

④ 大規模災害時等における惨事ストレス対策のあり方は、どのようにすべきか。

- 大規模災害対応における消防職員の惨事ストレス対策のあり方について検討し、今後更に充実させていただきたい。(要望書：資料 7)
- 現在、消防本部ではどのような対策を行っているのか。(資料 8)

2 惨事ストレス対策に関する消防職団員への事前教育、普及啓発等について

① 職場における事前教育等を円滑に進めるとともに、更なる普及啓発等を図るためにはどのようにすべきか。

- 何らかのメンタルヘルス対策を実施している消防本部は 6 割。残りの 4 割の消防本部は何の施策も実施していない。また、地域別にみると、関東 (30.3%)、近畿 (33.6%) が多く、北海道 (14.8%)、中国・四国 (14.7%) (報告書①：資料 9)

② 惨事ストレスを受けた職団員の把握から始まり、消防本部での対応、専門機関での対応へと適切な処置を行うにはどうあるべきか。

- 惨事ストレスの対策パターン及び PTSD チェックリスト等について、活用状況はどのようなになっているか。(報告書①：資料 10、報告書②：資料 11、参考：資料 12)

3 対象者の特性を踏まえた対策の実施について

① 消防団員が、惨事ストレス対策を受けやすくするにはどのようにすべきか。

- 8 割以上の団員が震災での活動でストレスやショックを感じたと回答。しかし、何らかのストレス対策を実施したと回答した団員は約 1 割。(消防団あり方検討会：資料 13、報告書①：資料 14)
- 消防団員に対する対策も必要と考える消防本部が約 36%ある。(報告書①：資料 14)
- 地域に密着した消防団員が惨事ストレス対策を受けるためには、地域住民の理解が必要。

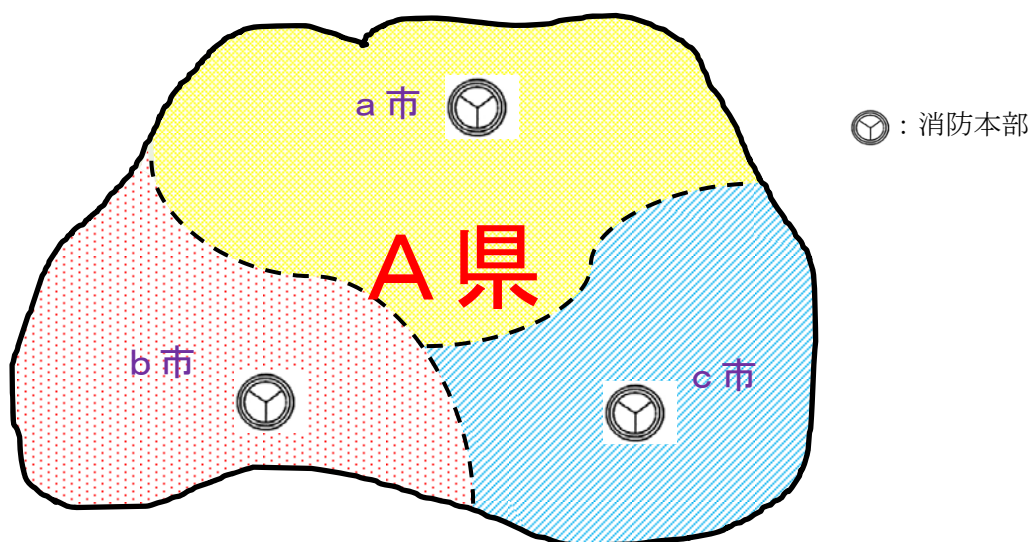
② 惨事ストレスを受けた職団員の家族に対するケアはどのようにすべきか。

- 職員の家族に対する対策も必要とした消防本部が約 3 割 (報告書①：資料 14)

消防業務における惨事ストレス対策

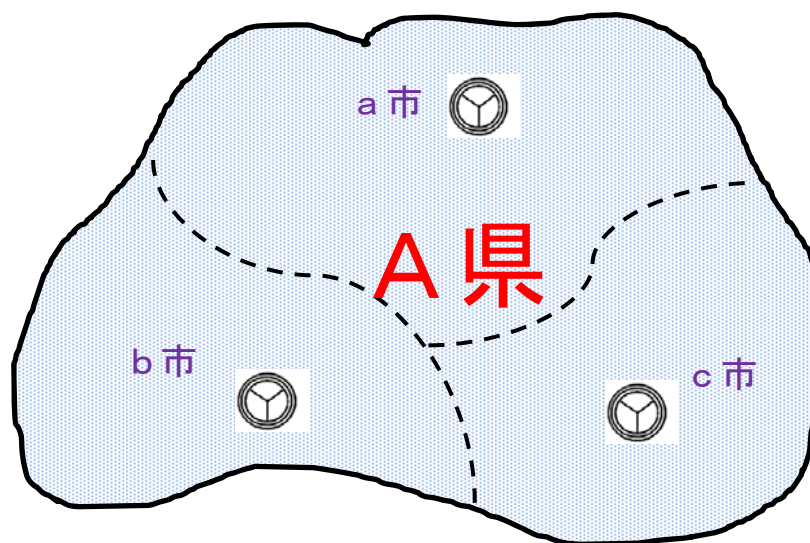
○通常災害時

- ・ 一般的な業務（例：火災、救助、救急、火災予防）



一般的な業務は、基本的に市町村の各消防本部を単位として対応している。

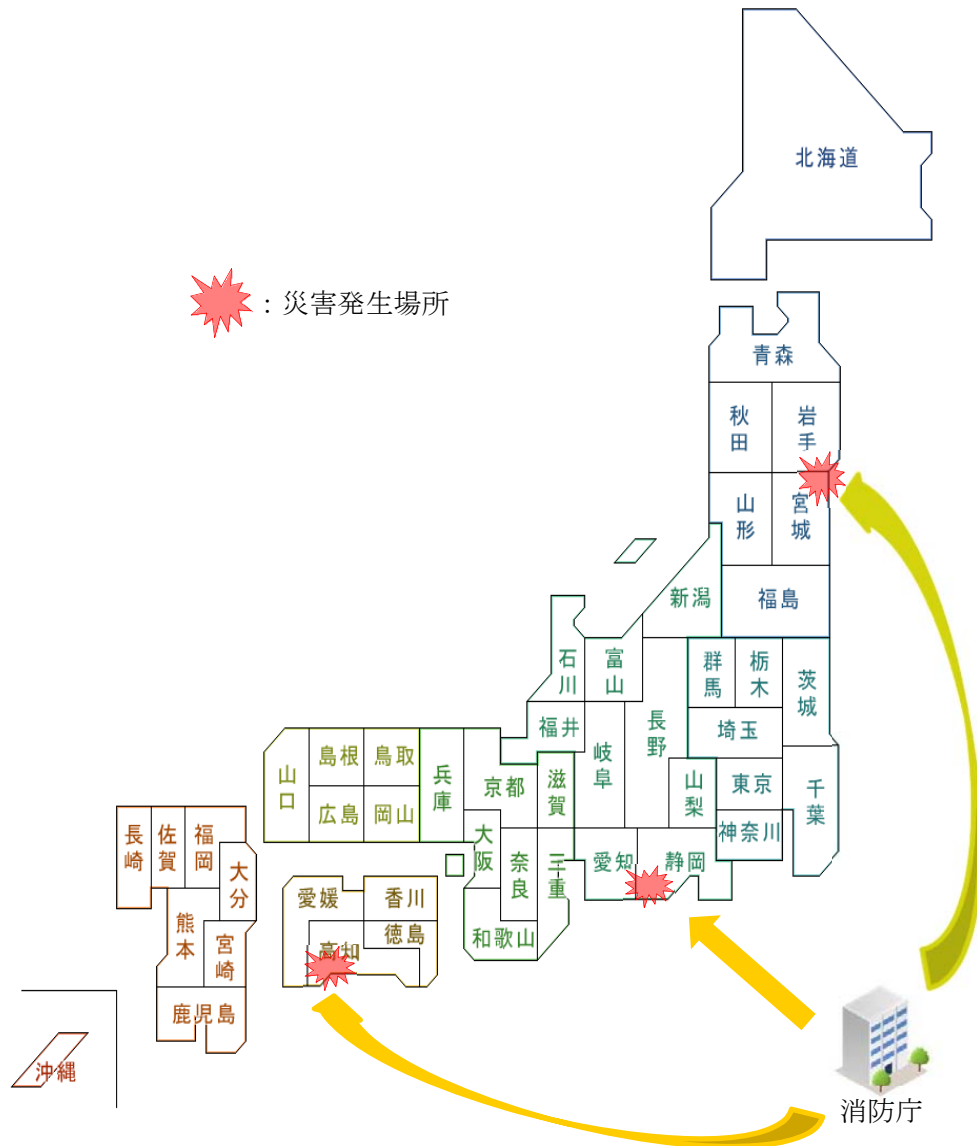
-
- ・ 専門的で特殊な業務（例：惨事ストレス対策）



惨事ストレス対策のように専門的で特殊な業務は、特に小規模消防本部での対応は難しい面がある。

⇒このような場合には、消防本部の垣根を越えたサポートも必要ではないか。

○大規模災害時等



- ・ 消防庁が全国各地に緊急時メンタルサポートチームを派遣
- ・ 体制の確立されている消防本部においては、自ら惨事ストレス対策を実施



- ・ 緊急時メンタルサポートチームの派遣に当たっては、国の派遣手続きや各消防本部における受け入れの準備が必要で、災害からサポートまで時間を要する。
- ・ 東日本大震災の際には全国各地から緊急消防援助隊の派遣が行われたが、派遣者の数が多く、また全国各地に分散しているため、サポートに長時間を要する。
- ・ 消防本部等における惨事ストレス対策の対応はさまざま。未実施のところも。

東日本大震災後の緊急時メンタルサポートチーム派遣に関する意見等 (平成 23 年 6 月～7 月消防庁実施)

※派遣先の消防本部での聞き取り。課題のみを抽出。

- もう少し早い段階でサポートチームを派遣してもらいたかった。(現場活動従事職員)
- 全職員にカウンセリングを受けさせたかった。(消防本部事務対応職員)
- 組織として、全職員が個別カウンセリング等を受けるような体制づくりが必要と感じた。(消防本部事務対応職員)
- グループミーティングに対する関心が強まり、その技法等に関して進行役となる隊長クラスへの研修等の必要性を感じた。(消防本部事務対応職員)
- 現場の災害対応などに追われ、サポートチームを受け入れられる体制をとるのに苦労した。(消防本部事務対応職員)
- 相談や取材申し込みなどで多忙を極め、なかなか派遣要請に応えられなかった。
(メンタルサポートチームメンバー)
- サポートチーム派遣メンバーの手配や受け入れ消防本部との折衝など、手続き業務に時間がかかった。(消防庁)

東日本大震災後の緊急時メンタルサポートチーム派遣に関する
アンケート調査結果【組織編】

1 チーム派遣の時期

消防本部	適切だった	適切でなかった	その他	「その他」の概要
A	○			
B			○	現場従事職員には遅かった。 事務等従事職員には適切であった。
C		○		
D			○	
E			○	ベストな時期とは言えないまでも、ベターな時期であった。
F			○	時期が少し遅かった。
合 計	1	1	4	

2 チーム派遣の期間

消防本部	長い	短い	その他	「その他」の概要
A		○		
B			○	交替制勤務対応につき適切であった。
C			○	丁度よい。
D		○		
E			○	全職員にカウンセリングを受けさせたかった。
F			○	適切であった。
合 計	0	2	4	

3 チーム派遣の効果

消防本部	あった	なかった	その他	「その他」の概要
A	○			
B			○	効果があった半面、課題もあった。
C	○			
D	○			
E	○			
F	○			
合 計	5	0	1	

※1 どのような効果があったか。（3で「効果があった」と回答した消防本部のみ）

- ・いくつかのセクションで、惨事ストレス、メンタルヘルス等について話題になり、職員同士が話し合っている。【A】
- ・カンセリングを受けて気持ちが楽になったと意見が聞かれた。また、自分の思っている意見を相談できた点は、大変メリットがあったと思う。【C】
- ・職員平均、30分以上の個人面談を受けていることから、抱えている問題や気になることを少しでも吐き出せたのではないかと思いますし、「面談を受けて良かった、少しすっきりした。」と話す職員もいる。【D】
- ・原発事故が長期化の様相を呈し始めた頃から、孤立感・疲弊感を感じ始めている職員が見られるようになった。こうした中、総務省消防庁という国の機関から当該サポートを受けたということ、プロフェッショナルな先生に自分達の思いを打ち明けられた喜びなどがあって、不安感や前述した孤立感などから少し解き放たれたというのが、カウンセリングを受けた職員の感想である。【E】
- ・初期における消防活動では、これまで経験したことのない地震津波でおびただしい死者、行方不明者が発生した中で、長期にわたる遺体捜索活動などでは惨事ストレスがあったことは確かである。しかし、約4ヶ月が経過し住宅を失った職員、原発事故による避難生活を余儀なくされた職員、また、子供と別居している職員と全く被災していない職員が同じ職場で勤務していることから、個々におけるストレスは様々である。災害が一段落し現実を直視したとき、将来不安を抱く職員が出始まったこの時期に、今回の講演会及び個別カウンセリングは意義があり効果もあったと思う。【F】

※1 どのような介入であれば有効か。（3で「その他」と回答した消防本部のみ）

- ・組織として、全職員が個別カウンセリング等を受けるような体制づくりが必要と感じた。【B】
- ・グループミーティングに対する関心が強まり、その技法等に関して進行役となる隊長クラスへの研修等の必要性を感じた。【B】

4 再度のチーム派遣の希望

消防本部	希望する	希望しない	その他	「その他」の概要
A		○		
B			○	事案が発生した場合希望する
C			○	職員の要望があれば希望する
D			○	職員の要望があれば希望する
E	○			
F		○		
合 計	1	2	3	

東日本大震災に係る緊急時メンタルサポートチーム派遣に関する
アンケート調査結果【職員編】

《全体講義》

1 惨事ストレスに関する講義内容

消防本部	非常に 理解できた	理解できた	理解 できなかった	全く理解 できなかった	無回答	合 計
A	7	46	0	0	0	53
B	3	4	0	0	0	7
C	7	27	0	0	3	37
D	15	35	1	0	8	59
E	26	69	2	0	0	97
F	4	16	0	0	0	20
合 計	62	197	3	0	11	273
割 合	22.7%	72.2%	1.1%	0.0%	4.0%	100.0%

消防本部	非常に 役に立った	役に立った	役に 立たなかった	全く役に 立たなかった	無回答	合 計
A	9	40	4	0	0	53
B	2	5	0	0	0	7
C	5	25	1	0	6	37
D	5	29	6	0	19	59
E	28	60	8	0	1	97
F	3	14	3	0	0	20
合 計	52	173	22	0	26	273
割 合	19.0%	63.4%	8.1%	0.0%	9.5%	100.0%

2 惨事ストレスに関する講義時間

消防本部	長い	短い	ちょうどよい	無回答	合 計
A	9	40	4	0	53
B	2	5	0	0	7
C	5	25	1	6	37
D	5	29	6	19	59
E	28	60	8	1	97
F	2	1	15	2	20
合 計	51	160	34	28	273
割 合	18.7%	58.6%	12.5%	10.3%	100.0%

3 放射線に関する講義内容について

消防本部	非常に 理解できた	理解できた	理解 できなかった	全く理解 できなかった	無回答	合 計
E	13	46	3	0	0	62
F	2	8	1	0	0	11
合 計	15	54	4	0	0	73
割 合	20.5%	74.0%	5.5%	0.0%	0.0%	100.0%

消防本部	非常に役に立った	役に立った	役に立たなかった	全く役に立たなかった	無回答	合 計
E	12	47	3	0	0	62
F	1	9	1	0	0	11
合 計	13	56	4	0	0	73
割 合	17.8%	76.7%	5.5%	0.0%	0.0%	100.0%

4 放射線に関する講義時間について

消防本部	長 い	短 い	ちょうどよい	無回答	合 計
E	6	11	45	0	62
F	4	2	4	1	11
合 計	10	13	49	1	73
割 合	13.7%	17.8%	67.1%	1.4%	100.0%

《カウンセリング》

1 カウンセリング手法

消防本部	個 別	グループ	無回答	合 計
A	53	0	0	53
B	7	0	0	7
C	30	0	0	30
D	58	0	1	59
E	36	1	0	37
F	20	0	0	20
合 計	204	1	1	206
割 合	99.0%	0.5%	0.5%	100.0%

2 カウンセリング内容について

消防本部	非常に話せた	話せた	話せなかった	全く話せなかった	無回答	合 計
A	7	41	5	0	0	53
B	2	5	0	0	0	7
C	7	20	2	0	1	30
D	10	44	4	1	0	59
E	6	28	2	1	0	37
F	4	16	0	0	0	20
合 計	36	154	13	2	1	206
割 合	17.5%	74.8%	6.3%	1.0%	0.5%	100.0%

消防本部	非常によかった	よかった	よくなかった	全くよくなかった	無回答	合 計
A	9	41	3	0	0	53
B	2	5	0	0	0	7
C	7	20	2	1	0	30
D	10	39	5	1	4	59
E	9	27	0	1	0	37
F	3	16	1	0	0	20
合 計	40	148	11	3	4	206
割 合	19.4%	71.8%	5.3%	1.5%	1.9%	100.0%

3 放射線に関する個別相談について

消防本部	非常に話せた	話せた	話せなかった	全く話せなかった	無回答	合 計
E	4	16	1	0	0	21
F	1	3	0	0	0	4
合 計	5	19	1	0	0	25
割 合	20.0%	76.0%	4.0%	0.0%	0.0%	100.0%

消防本部	非常によかった	よかった	よくなかった	全くよくなかった	無回答	合 計
E	6	15	0	0	0	21
F	1	3	0	0	0	4
合 計	7	18	0	0	0	25
割 合	28.0%	72.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

《派遣全般》

1 チームの派遣時期

消防本部	適 切	不適切	その他	無回答	合 計
A	39	14	0	0	53
B	5	0	2	0	7
C	19	16	2	0	37
D	33	13	10	3	59
E	45	42	6	4	97
F	10	7	2	1	20
合 計	151	92	22	8	273
割 合	55.3%	33.7%	8.1%	2.9%	100.0%

2 再度のチーム派遣

消防本部	希望する	希望しない	その他	無回答	合 計
A	17	35	1	0	53
B	2	1	4	0	7
C	11	22	3	1	37
D	16	34	6	3	59
E	64	25	8	0	97
F	7	11	1	1	20
合 計	117	128	23	5	273
割 合	42.9%	46.9%	8.4%	1.8%	100.0%

緊急時メンタルサポートチーム登録人数・登録地(勤務地)

地 域	登録人数
北海道地方	1 名
東北地方	0 名
関東地方	17 名
中部地方	2 名
近畿地方	3 名
中国地方	1 名
四国地方	2 名
九州地方	6 名
合 計	32 名

(平成 24 年 3 月 31 日現在)

